



あなたの望む生き方・暮らしを 訪問看護が手伝います

☎ 訪問看護ステーション ☎ (46)5511

病気や障害があっても住み慣れた家で暮らしたい、悔いのない生き方をしたい、人生の最期は家で迎えたいと望む人が増えています。しかし、「そんなことは無理だよな」とあきらめてしまう人、「家で調子が悪くなったらどうしよう」「入院を繰り返してしまう」「家で介護ができるのか」と自宅で過ごすことを不安に思う人が多いと思います。そんなときに、いつでも頼れるのが訪問看護です。



訪問看護は、病気や障害があっても自分の身の回りのことができる時から最期の看取りまで、看護師10人と作業療法士1人が自宅に訪問して心身の状態と日常生活動作などの安定を図り、利用者さんの望む生き方や暮らしを支えています。

主治医やケアマネジャー・病院などと共に、利用者と家族を24時間365日体制で生活支援します。病気や介護で困ったことがありましたら、いつでも気軽に相談してください。

秋の叙勲 受章

おめでとうございます

旭日小綬章

平岩統一郎氏（若宮町）
産業振興功労

☎ 秘書情報課秘書係 ☎ (95)9861

碧南の歴史へのいざない

☎ 文化財課内
市史資料調査室
☎ (41)4566

No.79 大浜の大仏さま

市内音羽町(大浜) 海徳寺の本尊は、高さが278cmもあり「大浜大仏」と呼ばれ親しまれています。大仏は長い間、江戸中期の作と思われていました。ところが平成14年、文化庁の本格的調査により、数少ない平安時代の作であること、さらに学術的価値の高い仏像であることが明らかになりました。そのため大仏は、翌年に国の重要文化財に指定されました。もともとこの大仏は、8世紀に創建し平安時代末に中興したという、伊勢神宮寺の本尊でした。ところが明治の初めに大変な出来事があったのです。

徳川慶喜の大政奉還により、新政府は、天皇制の下、神道による近代国家形成を目指し、明治元年に神仏分離令を発令しました。これが仏像を壊したり、寺を無くすという廃仏毀釈運動へと発展してしまっただのです。

伊勢神宮のおひざ元で初代知事となった橋本実梁はしもとさねやなは、伊勢山田（神領内）では仏葬を禁じ神葬に改めさせました。さらに寺に対しては、廃寺願を出すこ

とを命じ、ちゅうちよする寺には官が没収することを言い渡しました。このため伊勢山田では、およそ150か寺が廃寺となりました（「廃仏毀釈」辻善之助著）。

当時、漬物で名を馳せていた大浜の角谷大十は、商用で松坂方面へ行ったとき、この騒動を知ったといひます。大十は集金した金子200両を投じ、大十と海徳寺22代晃道上人の弟、戒頓かいとんが購入し、永井初之助の持船で、寺田清三郎が船頭となり大浜へ運んだとされています。大十は檀那寺の海徳寺に大仏をはじめ仏像・仏具を寄進しました。

この時大浜湊へ運ばれた仏像は、実に60余体であったといひます。また海徳寺檀徒の主だった人々に分けられたと「碧南市史料第34集」に記されています。

